

ワイレガラNAJAS理事長との懇談会を開催

—NAJASの役割と北東アジアの半導体開発の展望について聴く—

2024年10月29日

講師：アンドリュー・ワイレガラ

全米日米協会連合会 理事長



経済広報センターは10月29日、東京・大手町の経団連会館で全米日米協会連合会（NAJAS）の
アンドリュー・ワイレガラ理事長との懇談会を開催した。同組織の活動と役割、北東アジアの半導体開発
の展望等について説明を聴くとともに意見交換した。会員企業の幹部や海外事業担当者ら30人が参加
した。

ワイレガラ氏は冒頭、NAJASの主な活動として、同センターと協同で全米各地において継続的に
開催している「ビジネス・スピーカー・シリーズ」（BSS＝日本企業幹部が事業戦略や地域社会への
貢献などを説明し、意見交換するシンポジウム）を詳しく紹介した。多くの日系企業が米国で発展を
遂げていることが奏功し、BSSはNAJASの会合のなかで最も人気を博すプログラムであり、BSS
の継続とともに、日本企業の経済活動のさらなる展開に期待を示した。

続いて、北東アジアの半導体産業の展望について説明。日米は、かつて半導体分野で激しく競争した
が、経済安全保障などもあり、状況は変化していると言及。米国政府はCHIPS法に基づき、半導体
投資を拡大しており、この政策は、次期政権でも継続されるとの認識を示した。そのうえで日米は、強固
なサプライチェーンを活用した半導体の開発や投資において相互に補完性を有することから、オランダ
など欧州を含めて連携を強化していく必要があるとした。また、台湾が担う役割について、台湾積体回路
製造（TSMC）は中核的な技術や生産能力を堅持しつつ、最先端品から普及品までの半導体を米国や
日本で生産しようとしており、引き続き、こうした動きを注視していくべきとした。

意見交換では、NAJASの運営や、米国の半導体産業について質問が出された。これに対し
ワイレガラ氏は、全米に展開するNAJASは会費等で運営されており、少数精鋭のスタッフで臨んで
いると説明。また、米国内での半導体生産の課題として、政策立案者との密な連携や、サプライチェーン
の構築などを挙げた。

以上

一般財団法人

経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。